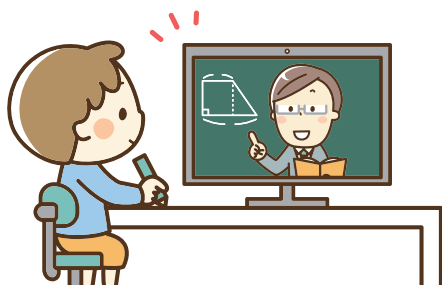


# ICTの活用

## — 学びの広がり と 深まり を 目指して —

新型コロナウイルス感染症対策により、学校が長期にわたり臨時休業となるなどの状況の中で、ICT を最大限に活用したオンライン教育に注目が集まっています。

文部科学省では、令和2年6月に教育の情報化が一層進展するよう、「教育の情報化に関する手引き（追補版）」を作成しました。そこでは「インターネットを用いて他校の子供たちや地域の人々と交流し、異なる考えや文化にリアルタイムに触れることにより、多様なものの見方を身に付けることが可能となる。また、テレビ会議等により学校外の専門家と交流して、通常では体験できない専門的な内容を聞くことにより、子供たちの学習内容への関心を高めることが可能となる。」と指摘し、ICTを活用した学びを通じて、学校外の専門家と積極的に連携した新たな教育活動の方向性を示しています。



今回の特集は、ICT活用した学習を行うに当たり参考としていただくため、教育支援を行う企業やNPO等がそれぞれの専門性を生かして開発、提供しているオンライン学習教材や、ICTを活用した出張授業の試みを紹介したいと思います。

### 学校ではICT環境の整備が進められています。

#### GIGA（※1）スクール構想（文部科学省）

Society 5.0（※2）時代に生きる子供たちにとって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであるとし、児童生徒の一人一人に一人一台の端末を、及び各校内における高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する事業です。

並行して、クラウド活用推進、ICT機器の整備調達体制の構築、利活用優良事例の普及、利活用のPDCAサイクルの徹底等を進めることで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びをサポートし、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げる学習を全国の学校現場で持続的に実現させることを目指しています。

※当初、令和5年度を目標としていた児童生徒一人一台のPC端末整備について、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、令和2年度内の完了に前倒しされることになりました。端末を家庭学習にも活用できるよう、モバイルルーターの無償貸与や教員用のカメラやマイクの整備など、遠隔教育が可能なICT環境の整備が一気に加速することになります。

※1 GIGA

「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字。

※2 Society 5.0

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すものです。Society 5.0で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。（内閣府ホームページより抜粋）



## いつでも活用できる企業と連携したオンライン学習教材



次頁からは、地域教育推進ネットワーク東京都協議会（※）のプログラムアドバイザーであるNPO法人企業教育研究会が、企業等と共同制作した、教育機関が無料で活用できる教材の事例を紹介します。

教科の学習や、プログラミング教育、食育、総合的な学習の時間などで活用できる、企業・NPO等が提供している動画や学習アプリの例や、授業での活動例をご覧ください。そして、各サイトも御覧いただき、学校の授業や教員研修、保護者会、家庭学習の題材として御活用ください。

※地域教育推進ネットワーク東京都協議会：子供たちの教育活動に、企業、大学、NPO等の専門的な教育力を効果的に導入するためのネットワーク。東京都教育委員会が平成17年度に設置。  
<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/schooling.html>



### NPO 法人企業教育研究会



- 学校内だけでは出会えない「リアルな社会とのふれあい」を子供たちへ！
- 企業、学校、学生とともに「誰もが教育に貢献する社会」を目指して！

教育に貢献したい「企業」、社会とつながりたい「学校」、教育や社会について学びたい「学生」らの架け橋となりながら、専門とする「授業づくり」を通して「誰もが教育に貢献する社会」の実現を目指しています。

※プログラムアドバイザーの活動については11頁で紹介しています。



### 行政機関が提供しているICTを活用した学習の情報サイト

オンライン教育に活用できる教材や授業の方法に関する情報を各機関がとりまとめています。随時、更新されていますので、チェックしてみてください。

■ **東京都教育庁「学びの支援サイト」**    
[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/learning\\_support.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/learning_support.html)  
 東京都教育庁指導部が公開している学習支援のポータルサイトです。  
 オンライン学習や、自宅学習で活用できる教材などの情報が、続々と更新されています。



■ **文部科学省「子供の学び応援サイト」**    
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/gakusyushien/index\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm)  
 文部科学省による学習支援コンテンツのポータルサイトです。校種別・教科別に整理され、映像教材や、各地の教育機関が作成している動画の情報などにもアクセスできます。  
 文部科学省は、その他にも「子供の学び応援コンテンツリンク集」を公開しています。




■ **経済産業省「未来の教室～ learning innovation～」**    
<https://www.learning-innovation.go.jp/>  
 経済産業省による「未来の教室」の実証プロジェクト群の進捗状況や、学校・学習塾・個人学習で使える国内・世界のEdTechの最新動向等を広く情報発信するためのポータルサイトです。これまでに行われてきたICTを活用した授業や研修会の事例も掲載されています。



## ■いつでも活用できる企業と連携したオンライン学習教材①■

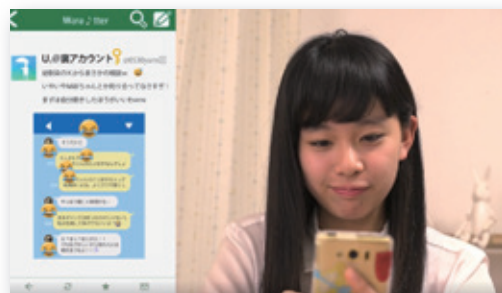
### みんなで考えよう、スマートフォン

関連教科等	道徳科、技術科、情報モラル教育など	
対象学年	小学校高学年～中学校	
提供団体	ソフトバンク株式会社×NPO法人企業教育研究会	

#### プログラム紹介・特徴

携帯電話やスマートフォンに関する知識を、直接教えて啓発する形式ではなく、映像教材をもとに問題提起し、主体的に考え、話し合い、問題点を客観的に考えることで、自らの携帯電話、インターネットの利用法や付き合い方を振り返る内容となっています。

教材には3つのテーマがあり、「友人間でのメッセージアプリのトラブル」、「動画配信サイトでの炎上」、「家庭でのルール」をそれぞれ扱っています。



映像教材(ドラマ)

#### 授業での活用例 【指導案】45分授業

##### 【教材ドラマの内容】

悠美は、クラスメイトの恋バナをネットでつぶやくアプリWara♪tterの「裏アカ」に投稿。限られた人しか見られないはずなのに、それがスクリーンショットされて…

##### 学校で考えよう 予期せぬネットトラブル？

2分	学習課題の把握
8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラマを見て考えよう！</li> </ul> ドラマの中の登場人物が、なぜトラブルになってしまったのか、理由を考えながら視聴する。
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルの原因を話し合おう！</li> </ul> できるだけ多くの理由を考え、ワークシートに書く。他の児童生徒と話し合っ、発表を行う。
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なんで、こうなっちゃったの～？」とならないためのアドバイスを送ろう！</li> </ul> 気をつけることは何かを考え、ワークシートに書く。話し合い、発表を行う。
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンとの付き合い方について考えよう</li> </ul> 解説編の映像を視聴する。スマホを使っていくとしたら、どのようなことに気をつけるか考え、ワークシートに書く。まとめを行う。



授業進行用スライド

##### ●活用された先生の感想

- ・特定の行動がどのようにトラブルにつながるかの過程を具体的に認識できるようになりました。
- ・生徒間で話題に挙がるようになり、お互いに注意し合うようになった。
- ・動画では、生徒に考えさせる内容になっており、よりリアル感があり、生徒も共感できていた。

このほかに、映像教材として以下の2つが収録されています。

- 「学校で考えよう 動画配信の罠？」
- 「家庭で考えよう スマホトラブル、うちの子だけは大丈夫？」

#### プログラム提供団体より

令和元年度は、約1万人の子供たちが本教材を使った授業を受けています。(事務局に報告があったもののみ。)情報モラルの授業で活用いただくのはもちろんのこと、保護者会などで大人への理解を促す場面でも御利用いただいております。また、本教材は、映像を見て考える授業のため、話し合いの場面を工夫することによって、ICTを利用した遠隔授業も可能になっております。




#### 教材の 入手方法・ 問合せ先

Webサイト：<https://ace-npo.org/info/kangaeyou/index.html>  
 NPO法人企業教育研究会 考えよう、ケータイ係  
 TEL：03-5829-6108 FAX：020-4663-5605  
 E-mail：kangaeyou-keitai@ace-npo.org

## ■いつでも活用できる企業と連携したオンライン学習教材②■

### K3Tunnel(ケイサントンネル)

関連教科等	算数科、社会科、プログラミング教育など	
対象学年	小学校5、6年生	
提供団体	日鉄ソリューションズ株式会社×NPO法人企業教育研究会	

#### プログラム紹介・特徴

オンラインにて無料で活用できる問題解決型のプログラミング学習サイトです。「計算するプログラミング」を主なテーマとし、グラフの使いやすさを重視したビジュアル・プログラミング・ツールと身近な問題を扱う学習コンテンツがあります。

令和2年度より必修化されたプログラミング学習に対応した「教員向け指導案」「授業進行スライド」「ワークシート」をセットにした教材「データをめぐる謎を探れ！」を公開し、全国の先生方に指導案冊子の配布や研修会の実施も行っています。



授業進行スライド

#### 授業での活用例 【指導案】90分授業 (45分×2)

MISSION #09 データをめぐる謎を探れ！		
導入	8分	授業のテーマを伝えると共に、学習の動機付けとなるアニメーションの視聴
展開1	12分	代表値について学習すると共に、データ量が多いときの計算の大変さに気づく。
活動1	25分	K3Tunnelを活用し、データ分析。プログラミングの有用性を実感する。
展開2	10分	発展1の活動についてまとめると共に、新たな課題のアニメーションの視聴
活動2	30分	K3Tunnelを活用して、ヒストグラムの作成とデータ分析を行う。 データ分析の結果を踏まえ、各班ごとに意見を発表する。
まとめ	5分	本時の学習について振り返ると共に、社会の中で使われるデータ活用について知る。



実際のプログラミング画面

#### ●活用された先生の感想

算数の文脈、課題解決の中でプログラミングを学べるのが理想だと思っています。サイト上に公開されているスライド、ワークシートを活用することで、児童がプログラミングの良さを実感できる授業にすることができました。



活動中の児童の様子

#### プログラム提供団体より


- 学習の動機付けとなるアニメーションを含むスライドや指導案の掲載もしております。実際に授業で御活用いただいた先生の感想やアレンジの事例を掲載しています。
- 遠隔での授業実践や家庭での学習にもご利用いただけます。また、自由にプログラムを作成・編集もできるため、発展的な学習や課題研究等でも活用いただけます。

#### 教材の 入手方法・ 問合せ先

Webサイト：<https://k3tunnel.com/index.html>  
Email:k3tunnel@jp.nssol.nipponsteel.com

## いつでも活用できる企業と連携したオンライン学習教材③

### デジタル教材「食育の時間+（プラス）」

関連教科等	食育、家庭科、給食指導、保健体育科、道徳科、総合的な学習の時間など	
対象学年	小学校4年生～6年生	
提供団体	日本マクドナルド株式会社×株式会社NHKエデュケーショナル×NPO法人企業教育研究会	

#### プログラム紹介・特徴

「食育の時間+」は、成長期の子供たちが知っておきたい“食にまつわる基本”を7つのテーマにまとめ、テーマごとにアニメーションや動画、アプリを楽しみながら自分事として学べるデジタル教材です。わかりやすく理解を深められる学習アニメ、専門家による解説動画、主体的に学習の定着が図れる学習アプリなどがパッケージ化され、短いコンテンツを順番に再生していただくだけで効果的で楽しい授業が手軽に実施できるよう工夫されています。各コンテンツは単体でも組み合わせても利用できるため、短時間指導や自習、家庭学習にも使えます。

#### 授業での活用例 (テーマ2の場合) 【指導案】45分授業

五大栄養素と栄養バランス		
導入・問題提起	5分	「物語アニメ1」を視聴 サッカー選手が不調に陥っていると相談してきたアニメを見る。
推理	5分	問題の原因(=食事の偏り)を話し合う。
知識	12分	「学習アニメ1」を視聴 栄養素が重要な鍵を握っていることを知り、五大栄養素の働き・食品をクイズで学ぶ。
解明	4分	「学習アニメ2」を視聴 炭水化物が少ない食事に不調の原因があることを知る。
理解	4分	「解説動画1」を視聴 五大栄養素と栄養バランスの重要性を管理栄養士による解説で学ぶ。
発展	3分	「物語アニメ2」を視聴 栄養バランスを良くするためにはどうすればよいかを考える。
学習の定着	10分	「学習アプリ」で考察 栄養バランスがとれた食事を自分で考える。
感想	2分	授業の振り返りを行う。



(五大栄養素の学習アニメ)



(栄養バランスの学習アプリ)

●活用された先生の感想 アニメーションを導入として使う流れになっていて、子供たちの興味を引きつけてくれるのにとっても役立ちました。五大栄養素や、食べ物にも役割があることが理解できたように見えました。

#### プログラム提供団体より

45分授業に限らず、給食指導などの短時間の学習場面でも利用できます。教材はウェブサイトからパソコン・タブレットなどで視聴できるため、学校でも家庭でも学べます。教材コンテンツを収録したDVD付き指導案冊子も無料提供しています。また、休校期間中の家庭学習やオンライン用教材として、複数の自治体や学校でも紹介されました。

#### 教材の 入手方法・ 問合せ先

「食育の時間+」サイト：<https://www.chantotaberu.jp/>  
食育授業支援事務局 (NPO 法人企業教育研究会内)  
TEL：03-5829-6108 FAX：020-4663-5605  
E-mail：shokuiku@ace-npo.org



DVD 付き指導案冊子 (無料)

## ■いつでも活用できる企業と連携したオンライン学習教材④■

### 考え、議論する教材シリーズ「私たちの選択肢」

関連教科等	道徳科、特別活動、総合的な学習の時間など
対象学年	小学校高学年～中学校3年生
提供団体	ストップイットジャパン株式会社 協力：NPO法人企業教育研究会、ほか



#### プログラム紹介・特徴

「私たちの選択肢」は、いじめ等の防止に寄与することを目指して、千葉大学、敬愛大学、柏市教育委員会と共に連携して開発したドラマ教材です。「脱いじめ傍観者教育」、「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）教育」、「多様な性を理解する教育」の3つのテーマがあります。ドラマ内では主人公が考える2つの行動の「選択肢」が現れ、教室の児童生徒それぞれが「私たち」だったらどう行動するか、ドラマ内の主人公の状況や行動を考え、選択する場面があります。考え、議論する道徳の一教材として活用できるものとなっています。  
(ストップイットジャパン株式会社 清水浩貴)

#### 授業での活用例 【指導案】45～50分授業

ドラマ教材のストーリーに従って児童生徒間でディスカッションをしたり意見の共有を行います。

私たちの選択肢	
15分	<b>1 いじめへの対応について考える</b> ○動画1（「悪口をやめるよう書き込みをする」か「何も書き込まない」かの選択肢まで）を視聴
10分	<b>「みなさんが光（ヒカリ）さんの立場だったら、選択肢1と選択肢2のどちらを選びますか。」</b> ○個人の考えをワークシートに記入する。 ○近くの席で意見交換
5分	○動画2を視聴する。 ○抽選方法について確認し、抽選アプリで抽選を行う。
10分	<b>2 選択の結果を振り返り、考える</b> ○抽選の結果に従い、動画3（選択肢1）もしくは動画4（選択肢2）を視聴する。 視聴後は児童生徒の様子を見て、何か言いたそうな児童生徒がいれば発言してもらう。 ○もう一方の選択肢も見たいか確認し、意思を確認した上で視聴する（見たいという児童生徒が全くいなければ、視聴する必要はない。）。 <b>「（少し児童生徒の様子を見てから）ここまでの内容から感じたことや考えたことをワークシートに書いてください」</b> ○個人の考えをワークシートに記入する。 ○近くの席で意見交換
5分	<b>3 解説を聞く</b> ○動画5を視聴する。 ○授業の感想を発表する。
5分	<b>4 報告や相談の方法を知る</b> ○傍観者から仲裁者になる方法として、相談や報告窓口など、行動するための方法を伝える。



（授業の様子）

#### プログラム提供団体より

テーマの一つである「脱いじめ傍観者教育」は、「クラスにいじめを止める雰囲気がある場合には、いじめを止める行動をとろうとする人が多い」という研究成果をもとに、観衆や傍観者がいじめを止める行動をとれるようにすることをねらいとした授業です。

千葉県柏市では、平成29年度より本授業を市内の中学校全21校の1年生全クラス（約100学級）で実施しています。また、全ドラマ教材を収録したDVD付き冊子を無償で提供しております。さらに、令和2年度からは講師が学校を訪問せず遠隔で授業を実施する取組も行っております。

#### 教材の 入手方法・ 問合せ先

Webサイト：<https://www.stopit.jp/workshop>  
 ストップイットジャパン株式会社 info@stopit.co.jp  
 ※「私たちの選択肢」の指導案等を掲載した「利用の手引き」（PDF版）、指導案、ワークシート、抽選アプリを上記のWebサイトにて無償提供。全ドラマ教材を収録したDVD付き無償冊子の送付を希望の場合は、上記メールアドレスへ申し込むこと。

## 企業・NPO等と連携した地域の教育力を生かす ICTの活用

令和2年度より小学校から順次実施されている新学習指導要領では、初めて「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付けました。そのため、情報教育や各教科において、ICTを活用した学習活動の充実を図ることが求められています。

また、新学習指導要領のポイントでもある「社会に開かれた教育課程」を実現するため、ICTを活用することで、他県や外国などの遠隔地の人々など、教育支援を行いたいと考える人達が、どこにいてもオンラインで授業支援に参加することができ、保護者が自宅から授業に参加することも可能となります。企業・NPO等が提供する教材や出張授業も、今までより容易に活用することが期待できます。

文部科学省の「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」では、「学校におけるICTを活用した学習場面」として、一斉学習・個別学習・協働学習の様々な場面でのICTの活用方法が紹介されています。

今後、様々な学習場面で「主体的、対話的で深い学び」を促進するために、ICTの活用が大きく寄与することでしょう。

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p> <p><b>A1 教員による教材の提示</b></p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p> <p><b>B1 個に応じる学習</b></p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p> <p><b>B2 調査活動</b></p> 	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p> <p><b>C1 発表や話し合い</b></p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>複数の意見・考えを議論して整理</p> <p><b>C2 協働での意見整理</b></p> 
<p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p> <p><b>B3 思考を深める学習</b></p> 	<p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> <p><b>B4 表現・制作</b></p> 	<p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p> <p><b>B5 家庭学習</b></p> 	<p>グループでの分担、協働による作品の制作</p> <p><b>C3 協働制作</b></p> 	<p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p> <p><b>C4 学校の壁を越えた学習</b></p> 

文部科学省「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」より

次頁からは、年間を通じて学校で出張授業を行っているアクセンチュア株式会社、株式会社メルカリのICTを活用した教育支援の試みについて、担当者の方に伺ったお話を事例と共に御紹介します。



## ■ ICT を活用した出張授業の試み① ■

### 参加者全員が自宅からプログラムに参加する “出張授業”の試み

プログラム紹介者：アクセンチュア株式会社 ビジネス コンサルティング本部  
マネジング・ディレクター 藤井 篤之氏



#### ● 出張授業の転換期

アクセンチュアでは、「Skills to Succeed (スキルによる発展)」と呼ぶ全世界共通の社会貢献テーマに取り組んでいます。この一環として日本では次世代人材育成に取り組み、子供たちに正解のない問いへの議論や多様な視点・価値観に触れられる様々なプログラムを提供しています。一方、新型コロナウイルスの影響で対面授業が難しくなり、企業によるアクティブラーニング形式の授業は大きな転換期を迎えています。アクセンチュアは自社における遠隔での会議・ワークショップ経験を活かし、アクティブラーニングプログラムの遠隔化を推進しています。

#### ● 遠隔での実践例

コロナ禍の早い時期から、組織における意思決定を学ぶアクティブラーニングプログラム「ゆら社長のジレンマ」のオンライン授業化を検討し、参加する中学生全員が自宅からプログラムに参加する試みを実施しました。授業の進行はNPO法人企業教育研究会スタッフ1名とアクセンチュア社員1名で行い、プログラムが進行するに伴い生徒たちは割り当てられた部署ごとにテレビ会議システム内の分科会室に分かれ、グループディスカッションを行います。ディスカッションではアクセンチュア社員がテレビ会議システムの分科会室を巡回し、議論のサポートを担当しました。



ウェブ会議システムを使用した授業の様子

#### ● 遠隔でのアクティブラーニング授業の構築に当たって

プログラムに参加した生徒からは「他の班の声が聞こえず部署内の議論に集中できた」という意見の一方で、「対面で顔を合わせた方が、緊張感がでて意思疎通しやすい」という意見もあり、ウェブ会議にてより議論しやすい状況を作ることが課題と考えています。さらに今後は、例えばプログラム内での社内満足度調査において投票機能を使う、リアルタイムに投票結果を確認できるツールを利用し、個々の想い・理由を可視化するなど遠隔授業ならではの進化も検討予定です。また、遠隔化によって、学校が所在地に関係なく様々な企業の授業を受けることが可能になるだけでなく、企業社員も在宅参加が可能となり、提供可能な学校の選択肢が増えます。

今後も遠隔授業でのアクティブラーニングプログラムの提供による学校支援を推進します。

#### ■ プログラム「ゆら社長のジレンマ」の流れ

##### STEP 0：参加者の接続確認

生徒が学校ではなく自宅から参加する場合は、ウェブ会議入室後、カメラとマイクのテストを兼ねて一人一人に呼びかけます。

##### STEP 1：部署決定

生徒を6つの所属部署（経営企画、経理、人事、旅行事業、地域貢献、営業・広報）に分けます。生徒は会社の仕組みを理解し、各部署の目的や役割、行動原理を学びます。

##### STEP 2：部署内議論

（テレビ会議システムのグループ分け機能を利用）

部署別に異なる情報が記載された資料を参考に、部署内で経営課題についての議論を行い、意見を一つに集約します。生徒は議論を行う上で必要な情報や論点があること、異なる意見の発見及び意見集約の方法を学びます。

##### STEP 3：部署別議論

（テレビ会議システムのグループ分け機能を利用）

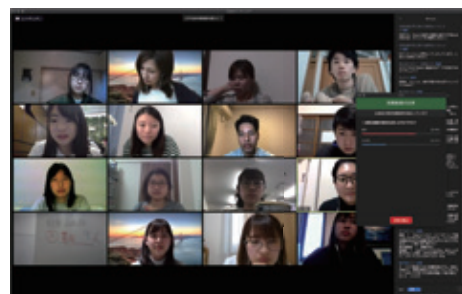
他部署に対して、所属部署の立場・意見・情報を説明し、さらなる議論を重ねます。生徒は立場が違えば意見や参照できる情報が異なることを学び、問題を多面的に捉える力を養います。また、所属部署の意見の説明を通して、発信力を養います。

##### STEP 4：最終意思決定

各部署は意見を統一し、経営企画部に提案。経営企画部は各部署の提案を総合して意思決定します。更に、経営企画部の意思決定に対する社内満足度調査を経て、結論によって異なるエンディングの映像を視聴します。生徒は最終的な意思決定のプロセスや実際に企業はどのように仕事・問題に取り組んでいるか学びます。

#### 生徒たちの感想

- ・コロナ禍で人が集まり過ぎるのは危ないと思うし、もし学校で感染者が出た場合のことを考えると、オンライン開催は良かった。
- ・普段の授業でディスカッションをすると仲の良い人と組んでしまいがちですが、ウェブ会議だとランダムで組むことができ、今までよりも様々な意見を聞くことができ満足した。



オンライン化した当初の模擬授業の様子



## ■ ICT を活用した出張授業の試み② ■

### 新型コロナウイルス感染症対策に備えて 模索した遠隔授業



プログラム紹介者：株式会社メルカリ 政策企画 齋藤 良和氏

#### ● 新型コロナウイルス感染症対策として

株式会社メルカリでは、フリマアプリ(※)を安心安全に利用するための啓発プログラムや、循環型社会の実現に向けた教育プログラムを企画・展開しています。これまでも出前授業や教材提供を行っており、今年3月には新しいプログラムを開始する準備を進めていました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大による先の見えない状況の中で、従来の対面式での授業実施が難しくなることを想定し、遠隔での授業の在り方を模索し始めました。

※フリマアプリ：オンライン上でフリーマーケットのように物品の売買ができるアプリのこと（東京都消費生活総合センターホームページより抜粋）

#### ● 遠隔での実践例

当初開発していた授業は、カード教材を通じて循環型社会を学べる小学生向けのプログラムでした。都内の小学校でテスト授業を実施する段階でしたが、児童同士が接触する可能性があったためリリースを見送り、安心安全かつ楽しく学習できるプログラムを提供できないか再検討をしました。そして、最終的に弊社が連携しているNPOの協力を得て、ウェブ会議システムを通じて学校と弊社の社員がやりとりをしながら、クイズ形式の教材を用いて学習ができるプログラムを作成し、学校での授業が本格的に再開される前の6月頃にかけて学童保育において実践授業を行いました。



学童保育における実践例

また、これまで実施していたフリマアプリの安心安全な利用に関する出前授業は、ウェブ会議システムを使った授業に切り替えると共に、グループワークを個人ワークに変更したり、質疑の際に先生に聞き取りに御協力いただくなど、ソーシャルディスタンスに配慮しながら円滑に運営できる形式にしました。

#### ● 「オンライン」「オフライン」のそれぞれの特性を生かす

遠隔授業を実施するに当たり、いくつもの懸念点がありました。投影スライドで要点を強調したり、チャット機能で質疑応答や補足説明をしたりすることで、集合型の研修よりも細やかなコミュニケーションがとれ、深い学びにつながっていると感じる場面が多くありました。

今後は更にオンライン・オフラインの区別だけではなく、その授業本来の目的に立ち返り、それぞれの特性を生かしながら工夫と改善を続けていきたいと考えています。

#### ■ 小学校での実践例（30分）

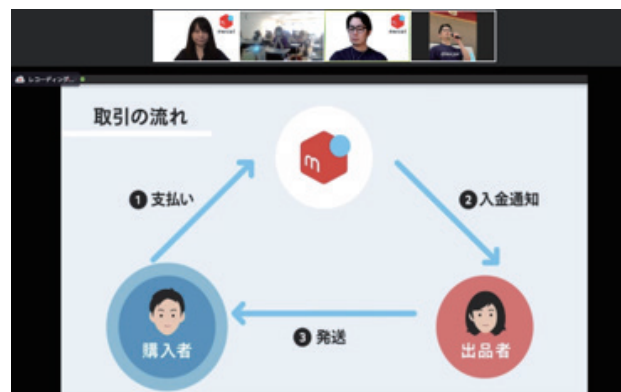
- フリマアプリの仕組み説明 5分
- クイズ教材による循環型社会の解説 10分  
フリマアプリに出品されている商品を題材に循環型社会を学ぶ。
- 検討と発表 10分  
クイズ教材で学んだ「自分がいないと思った物が誰かの役に立つかもしれない」という考えをもとに、自宅にある物をイメージし、どんな人にとってどのような役に立つかを自由に考え発表してもらう。
- まとめ 5分  
授業を総括し、保護者向けのプリントを配布する。

#### ■ 中学・高等学校での実践例（50分）

- フリマアプリの仕組み解説 10分
- 動画教材によるフリマアプリを利用する際の課題提示 10分
- 個人ワークによる課題検討 10分
- 課題内容についての解説 15分
- 安心安全に利用するためのポイントまとめ 5分

#### 児童と保護者からの感想

- オンラインでメルカリの人から反応やコメントがあるのが良かった。(児童)
- 使いかけの文房具なども、たくさん集めたら誰かのためになるのかなと友達と話した。(児童)
- 授業の後、子供が家ではいらないけれど誰かの役に立つかもしれないものを探していた。古くなった鉛筆や消しゴムも大事に使うようになりました。(保護者)



ウェブ会議システムでの授業の様子



地域教育推進ネットワーク東京都協議会は、学校と企業・NPO等をつなぎ、新学習指導要領のポイントである「社会に開かれた教育課程」の実現を支援しています。



地域教育推進ネットワーク東京都協議会では、「社会に開かれた教育課程」を実現するために、企業やNPO等の教育プログラムの情報や具体的な活用事例を把握しているプログラムアドバイザーを配置しています。

総合的な学習の時間や各教科等に、企業やNPO等のプログラムを導入したい、こんな講師を探しているなど、外部の教育資源の活用を検討している場合は、是非、お問い合わせください。学校と企業やNPO等との連絡調整を行い、授業の目的に適したプログラムを導入するお手伝いを行います。

○プログラムアドバイザーについての問合せ先  
東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課 プログラムアドバイザー担当  
電話 03-5320-6853

### 授業例

#### I 教科で企業等の専門分野を学ぶことを支援

- 企業の専門分野に触れた参加型の授業（理科、社会等）を可能
- プログラムアドバイザーが教育現場のニーズに合った教育プログラムを作成
- プログラム作成後はプログラムアドバイザーが学校と企業の連絡調整を担当

### 授業例

#### 「みんなで学ぼう クルマの安全」

コマ数：45分×1、2コマ  
対象：小学校1～6年生

内容：自動車メーカーの社員が、危険予知の映像と副読本を使いながら、クルマの機能と安全な乗り方を解説

関連する教科等：3、4年生：社会（安全を扱う単元）、5年生：社会（工業生産を扱う単元）、安全教室

#### 教員の声

・シートベルトの正しい締め方は保護者も「知らなかった!」と驚いていました。衝突実験の映像も子供たちの印象に強く残りました。  
・ドア1枚でも多くの部品でできているなど自動車会社ならではの解説は、社会科の工業生産の単元に入ったときに思い出させようと考えています。



#### 「未来実現! T教室 ～みんなでチャレンジ! ITエンジニア」

コマ数：45分×2コマ

対象：小学校5、6年生

内容：ITエンジニアになり、色に反応して動くセンサーロボットと地図を使いながら、街の配達システムを考え合う。

関連する教科等：産業や情報化を扱う単元、プログラミング教育

#### 教員の声

・後期に学習する「社会を変える情報」の内容と合致しており、学習するすべてのことがキャリア教育含め今後に生かされる事がわかる内容でした。  
・授業の日の下校時に「また! Tの勉強をやりたい!」という子供たちも多く、違う内容のプログラミング学習も是非やってみたいと思いました。



#### II 学びと社会・将来について生徒が主体的に考えることを支援

- 「働くこと」、社会の中で自らの役割を考える授業づくりが可能
- 自社の企業説明等、企業負担の少ない形で教育支援活動を実現
- プログラムアドバイザーが複数のゲスト講師及び学校との連絡調整を担当

#### (教員の声)

プログラムアドバイザーが教員のパートナーとして企業等との間をつなぎ、ワークシートや必要な様式等が準備されているので安心して実施できた。

## プログラムアドバイザーに支援現場の様子を聞いてみました!

### Q. どんな活動をしているのですか?

A. 御相談いただく際に「対象学年・教科・どんな目的で授業を行うのか」といったことを具体的にお伝えいただき、適したプログラムを御紹介したり、実際に出張授業をしたりしています。授業以外にも、教職員向けの模擬授業を含めた研修会や、保護者向けの研修会、カリキュラム・マネジメントの御相談など、学校の中における学びにつながる内容であれば、是非、御相談ください。

### Q. 「教育のICT化」や「学校のICT化」に対してはどんなことを感じていますか?

A. 日常の学習の効率が上がるだけでなく、地域の人・地域外の人との協力を得やすくなります。企業が行う出張授業も、移動時間が無くなります。実際に「これまで社会貢献活動をしたいくてもできなかった社員の参加を促すことができる」と考えている企業もあります。

ほかにも、家庭教育学級や学校保健委員会などにも、保護者が家からオンラインで参加できるようになります。授業参観も教室の後方で観覧する形式が多かったと思いますが、今後は保護者や地域の人が自宅等から児童・生徒と同じ授業を受ける形式にして、一緒に課題に取り組んでもらうなど発想は広がります。

### Q. 今後の展望を教えてください。

A. 地域の中にいる人と学校を結ぶのは、先生方や各地域のコーディネーターの役割だと思います。地域の外にいる人や団体については、私たちのようなプログラムアドバイザーに御相談ください。特に「対話的な学び」は、児童・生徒同士の協働だけでなく「教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考え、自らの考えを広げ深める」こととなっています。技術や文化の革新が速い現代においては、過去の偉人だけでなく、様々な試行錯誤を繰り返している企業や社会人も「生ける先哲」です。地域の外にいる大人や企業・団体と児童・生徒の交流を促す「対話的な学び」を、より多くの学校教育の現場で実現できればと考えています。

(インタビュー協力：NPO 法人企業教育研究会)